

エドゥアルド・クトロヴァッツ（ピアノ）

音楽家として、常に多方面で重要な活躍を見せている。ピアノを学んだだけでなく、打楽器や合唱にも長年注力している。

フランツ・ルップ、カール・ウルリッチ・シュナーベルのもとで学ぶ。1987年より、ウィーン音楽院大学にて、パフォーミングアーツを教える。

兄ヨハネスとピアノデュオを結成、国際音楽祭やコンサートホールで演奏し、成功をおさめていることでも知られる。

歌手、合唱、また様々な形で室内楽に関わっており、ピアニストとしての活動においても重要な挑戦をしている。

アンゲリカ・キルヒシュラーガー、エリーザベト・クールマン、イイディコ・ライモンディ、ジュリアン・バンス、アニャ・シルヤ、アドリアン・エレート、ロバート・リップルトといった歌手の伴奏のほか、ウィーン室内合唱団、ロシアのノヴォシビルスク室内合唱団にも関わる。

ソリストとして、また指揮者として、ウィーン・コンツェルト・フェライン、ウィーン放送交響楽団、クラメラータ・バルティカ室内弦楽奏団、ジュール・フィルハーモニー管弦楽団、新ソウル・フィルハーモニー管弦楽団、ノヴォシビルスク室内合奏団、東京フィルハーモニー管弦楽団などと共演している。

近年では、作曲家としての活動も本格化させている。

ヨハネスと共に、ライディングのリスト音楽祭、山中湖国際音楽祭の芸術監督をつとめている。